NPO法人ワン・シード

地域で親子を支える居場所づくり

― オハナヴィレッジによる地域の安心インフラ ―

海ゴミをひろって、海ゴミ妖怪作り

■きみの居場所、オハナヴィレッジ

学校に行きづらい子どもや、発達特性のある子どもを育てる保護者は、孤立しやすく、日常の中で誰にも本音を話せない状況に置かれがちです。「頑張らなければ」「ちゃんとしなければ」と力が入り続ける毎日。その緊張をほどける場所が地域に必要だと感じ、江田島の古民家・オハナヴィレッジを親子の居場所として開放しました。月に約20日ほど開放し、相談、親子イベント、自由な来訪など多様な形で受け入れを行っています。 教育委員会職員や教員とも情報共有を行い、地域ぐるみで子どもを見守る体制づくりにもつながっています。

親子の対話の環

■　2025年活動実績

- 居場所開放：約20日／月
- 利用者：延べ250～300名
- 保護者相談：延べ約100件
- 行政連携：江田島市主催のワークショップ講師
- 地域連携：地域有志「沖美ゆるり学び舎」結成と「島のゆるり市」実施

季節の自然の素材やシーグラス、毛糸などを使った飾り作り

■成果

発達特性のあるお子さんを育てるお母さんが、数年ぶりにイベントへ参加してくれました。赤ちゃんの頃から来ていた子どもは、再会すると走ってきて抱きついてくれました。
ワークショップ中、落ち着かない様子の子どもにお母さんが強く注意してしまう場面もありましたが、「大丈夫ですよ」と声をかけるとほっとした表情に。
後日「変わらず寄り添ってくれて嬉しかった。安心できました」とメールをいただき、受け入れてもらえる場所が地域にあることの大切さを改めて感じました。

オハナヴィレッジスタッフと男の子

地域の方との関わりも安心につながります

小学3年生のKさんは、大勢の中で過ごすことが苦手な女の子でした。数か月間オハナヴィレッジで自由に過ごすうちに、少しずつ人の輪にも入れるようになりました。今では学校には通っていませんが、大好きなダンスに打ち込み、仲間とステージにも立っています。お母さんからは「その時々の状態に寄り添って見守ってくれる場所があることがありがたい」と言葉をいただきました。家族以外の人々と交流し、親子が安心して過ごせる居場所の大切さを実感した出来事でした。

このような体験の積み重ねが、親子の孤立を防ぐ地域の安心の基盤になっています。

■広がり

居場所づくりを軸に、
・江田島市主催の子育て支援ワークショップ講師
・親子の関係性を育む「幸せ親子のOHANA時間」
・広島市と江田島市の親子の相互交流も目的とした「五感のアトリエ」
・地域有志と立ち上げた「沖美ゆるり学び舎」
・WWOOFを通じた国際交流や地域イベント　　・・・等へと活動は広がっています。

地域の人や子ども達とお餅つき

島のゆるり市で子どもの出店をサポート

自然農の畑で虫取りしたり、収穫したり

学校・家庭だけでは支えきれない親や子を地域で支える仕組みづくりと、子どもと親がそのままで安心していられる場所を地域に育てることが、孤立を防ぐ「地域の安心インフラ」につながると私たちは考えています。
本助成金は、親子の居場所づくり活動におけるワークショップ材料費、消耗品費、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりのための備品等に活用する予定です。